

平成24年3月19日

高浜市長 吉岡初浩 殿

第6次高浜市総合計画推進会議
会長 中川幾郎

「高浜市の未来を創る市民会議」のあり方について（提言）

「第6次高浜市総合計画推進会議」の作業部会である「高浜市の未来を創る市民会議」の平成23年度の運営について、別紙の課題と改善の視点を取りまとめました。

つきましては、平成24年度の運営にあたって、私どもの想いを十分に汲み取っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

平成24年度の「高浜市の未来を創る市民会議」の運営に向けて【提言】

課題	改善の視点
1. 分科会重視の運営	<ul style="list-style-type: none"> 全体会の回数は必要最小限とし、分科会活動に重点を置き、テーマについてじっくりと時間をかけて検討を行いたい。
2. 分科会の編成 (教育・子ども分科会の 見直し)	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画策定時（高浜市の未来を描く市民会議）の反省を踏まえ、「もっと分科会同士の横の連携を密接に行いたい」との声が挙がったことから、今回は、「描く」の「生涯学習分科会」、「教育分科会」、「子育て・子育て分科会」の3分科会を統合し、「教育・子ども分科会」に一本化した。 しかし、計画の「点検・確認」「実行」を行う上で、テーマの幅が広すぎ、かつ、人数（25人）も多かったため、1人当たりの発言回数が少なくなり、議論も大味になったことから、「教育・子ども分科会」を「生涯学習分科会」と「教育・子ども分科会」の2つに分けてはどうか。
3. 柔軟な分科会運営 (分科会同士の連携、 小チームの設置など)	<ul style="list-style-type: none"> 「他の分科会と連携、交流したい」「横のつながりを持ちたい」との声が非常に多かった。そこで、分科会で似通ったテーマが掲げられた場合は、必要に応じて、適宜、連携ができるように、各分科会の自主性・主体性に任せた、自由度の高い運営ができないか。 「防犯・防災 快適な都市空間分科会」について、「今年度は防災に特化して検討したが、防犯についても検討していく必要があり、別々の分科会にすることはできないか」との声があった。分科会の編成は基本計画の目標と対応しており、分科会の単位を細分化し過ぎるのは好ましくないが、必要に応じて、分科会の中に複数のチームを設けるなどの柔軟な運営ができないか。

課題	改善の視点
4. 実行テーマの明確化	<ul style="list-style-type: none"> 「出し合ったアイデアが形になった」という達成感・満足感につながるように、市民が意見・アイデアを出しやすい具体的なテーマを設定していただきたい。 分科会で、テーマ以外のことを議論（生涯学習基本構想の検討）したため、混乱する場面があった。「高浜市の未来を創る市民会議」の位置づけや役割をしっかりと認識し、テーマに沿った運営をしていただきたい。
5. 参画意識を高める工夫	<ul style="list-style-type: none"> 市民メンバーは、貴重な時間を割いて参画している。分科会では、出席者全員が発言できるように、意見を引き出すとりまわしや、楽しく話し合える雰囲気づくりを心がけていただきたい。
6. 職員の意識・姿勢	<ul style="list-style-type: none"> 職員は仕事として参画している。分科会の運営は、職員メンバーによるところが大きいので、ただその場に座っているということがないよう、どのように総合計画を達成しようとしているのか、その想いや気持ちが十分に伝わるように、会議に臨んでいただきたい。また、市民リーダーとの事前打合せも十分に行っていただきたい。 分科会の実行テーマが、自分の仕事とは、直接関係のない場合もあるが、分科会の構成メンバーとして、総合計画の実現に向けて、積極的に発言していただきたい。
7. メンバー編成について	<ul style="list-style-type: none"> 市民会議のメンバーにもっと女性や若い世代が参画することが望まれる。そこで、分科会を編成する際は、市民リーダーと協議し、多様な意見が反映できるメンバー構成となるよう取り組んでいただきたい。
8. 市民会議のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 高浜市の未来を創る市民会議は、高浜市にとって初めての試みであるので、市民会議自体も市民とともに創り上げていくという姿勢で臨んでいただきたい。